

信愛塾センター長 竹川真理子さんにお話 を伺いました

まっすぐに凛とした瞳、言葉から溢れる優しさと強さ。今回ゆめ会議でお話をしてくれたのは、信愛塾センター長竹川真理子さん。

時に力強く、時にユニークに。日々の相談活動や、子どもとその家族とを取り巻く様々な課題について、お話しくださいました。

「外国人のかかえる生き辛さは 当時と変わっていない」

信愛塾には子どもや、保護者の相談がたくさん寄せられます。1978年にできた当時は、在日韓国・朝鮮人への支援が中心だったそうです。しかし、現在は大陸や台湾系の人が増えてきているとのこと。「外国人のかかえる生き辛さは当時と変わっていない」、そう竹川さんはおっしゃいます。

人種の多様化、言葉の壁

90年代以降はニューカマーが多くなり、特に語学教育に苦戦。テキストもない時代で、暗闇の中を進むような作業だったそうです。子ども、保護者ともに「母語」が確立しているので、忘れないように、日本語とともに学ばせたといいます。

一方で、日本で生まれても日本語が話せない子もいるそうです。また、日本への定住傾向が強く、30年住む人もいます。

2016年の対応件数は783件。医療、出産、学校、いじめ、DVなど内容もさまざまです。

保護者の中には、子どもより日本語が不自由な人もいます。そうした家庭では、子どもがもってきた学校のプリントを、親が読めない。そのため子どもが通訳しなければならない。また、役所や病院に行くときも、子どもの同伴が必要になる。こうした事が続くと、子どもは親よりも自分の方が偉いと思ってしまう。言葉の不自由さについて、子どもから非常に強い言葉を向けられ、傷ついてしまう親の相談もあるといいます。

親愛塾では子どもの命が第一

生保受給については、抵抗感が強い人も多いそうです。「冷蔵庫の中まで調べられてしまう」、「受けたら、もうだめになってしまうのではないかなど相談されると言います。信愛塾では子どもたちの命を守ることを第一としています。そのためには、役所との連携もとっていかなくてはなりません。

信愛塾にくる子どもは、例えば、冬休みに入り学校給食がなくなると痩せはじめる子、一日ワンコインで暮らさねばならない子など……とにかく安全・安心が確保されていない子が多いそうです。

竹川さんは、2年に1度渡航して、子どもたちに会いに行く、「検証の旅」に出ているそうです。教師、サッカー選手になっている子もいるそうです。「かつての子どもたちが大人になっていく姿を見ていきたい」

「自分がしていることは伴走型 支援。学校でも家でもない第 3の居場所が信愛塾」

信愛塾では残留許可の手続き支援もしているそうです。外国の労働者が仕事を生かして取得できる「技能ビザ」では3か月しか働けず、その家族は「家族滞在」となり週28時間迄しか働けません。家族滞在では不便です。一般永住するための手続き等を支援しているそうです。

また、日本人と結婚した場合の配偶者ビザでは、離婚したり死別すると使えなくなることがあり、2週間以内に手続きをしないといけない。これを知らない人が多い。死別から半年経って、慌てて相談を受けたこともあるそうです。残留特別許可は難しくはなく、書類さえ揃えばいいのだが、本国に出生証明が取れない等困難なケースもあるそうです。

学校で「臭い」「給食費を払っていない」などと言われる子どももいるそうです。「こうした、見える問題の他、『食べていない』など見えない問題もある」。

竹川さんは、一見目に見えない問題への取組にも、力を入れています。例えば、信愛塾では家庭訪問もしっかりやる。学校の教師は家には入らなくても、自分たちは家に入っていく。「その子の家族の問題も抱えることになるが、子どもの命を守るためには、時には強引に行くことも必要」。信頼関係をいかに築いていくか。「自分がしていることは伴走型支援。学校でも家でもない第3の居場所が信愛塾。「相談」学び」「居場所」の場。是非いちど見学にきてください」

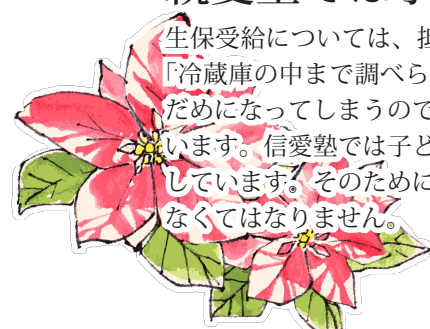
竹川さんの言葉は優しさと力強さに満ちています。

在日外国人教育生活センター 信愛塾

1978年秋発足。南区中村町に拠点を置き、子どもを中心に在日外国人家族を支援。

<http://www.sin-ai.server-shared.com/>

※見学の際は事務所に事前にご連絡ください





Q：信愛塾が開いている曜日はいつですか？

A：毎日です。子どもたちは、火、水、木、土の午後來ます。
月、金は相談日としています。



Q：子ども達は信愛塾に何時間くらい滞在できるのでしょうか？

A：特に決めていませんが、とりあえず放課後の時間中としています。中には、帰りたくないという子もいます。

Q：見学をしたいときはどうすればよいですか？

A：事務所に連絡をお願いします。できれば子どもがいない時がよいです。HPもあるので参考にしてください。

<http://www.sin-ai.server-shared.com/>

Q&A

Q：経営が厳しいと伺いましたが助成金は活用されていますか？

A：以前は県の財団からもらっていたものがありましたが、現在は無くなり、市から年 77 万円ほどもらっています。

運営費は寄付と会費が主財源。助成を受けることで収入が増えたとしても、これ以上の仕事は難しい状況です。

「竹川さんがいなかったら生きていけなかったと言う親御さんたちがたくさんいます」 寿学童保育山埜井先生

「子どもの状況をいつも教えてもらっている。信愛塾にはいつも感謝しています」 寿センター保育所 南雲所長

Q：生活保護を受給していると、永住権が取得しにくくなりますか？

A：永住権を取得するには年収 300 円と一定額の貯金など、要件があります。生活保護を受給しながらではありえません。

Q：母語と日本語をもっている子どもがいるというお話ですが、そうした子たちは、悩むときはどちらの言葉を使うのでしょうか？

A：信愛塾には、心の言葉はタガログ、話言葉は日本語という子がいます。言葉は安全・安心のためにとっても大切です。自分の子を、労働力としか見ない親もいるからです。



2016/12/



ODA-KUN

子どもたちの命を何よりも大切する信愛塾。

民生児童委員や学校、児童相談所や弁護士など…さまざまな専門職などとも連携しながら、相談者に寄り添った支援をされていることが分かりました。近年、周辺地域に暮らす外国人の増加に伴い、相談件数は右肩上がりとのこと。内容も深刻化しているそうです。

信愛塾の活動は、今後ますます大切になるのは、間違いありません。

竹川さん、本当にありがとうございました。